

嗜眠状態ヲ呈セシハ是レ腎炎ノ爲メ尿毒症ヲ發シ居リ爲メニ嘔吐ヲ來タシ食塊ヲ吸入シ遂ニ窒息ニ陥リタルモノナル可ント推測スルニ至レリ

ア、彼レ劇烈ナル嘔吐ニヨリ慘酷不慮ノ死ヲ遂ケタリ若シ夫レ絶ヘス人ヲシテ其病床ニ侍セシノ彼カ嘔吐ノ際速ニ適當ノ看護ヲ與ヘタランニハ或ハ彼カ生命ヲシテ尙ホ幾許カ延長セシムルコトヲ得タルナルヘシ吾人ハ敢テ此稀有ナル悲シムヘキ實例ヲ舉ケ以テ大方諸君ノ參考ニ供スルコト爾リ

終ニ臨テ余ハ内科醫長山崎學士ニ對シテ此實驗ニ於ケル勸誘ヲ辱フシタルト恩師村上教授カ多忙中此病例ノ考案ニ就テ懇篤ナル教諭ヲ與ヘラレシヲ感謝ス

◎副長惣趾屈筋ニ就テ

會員 河内 監次郎

全 安宅 治六

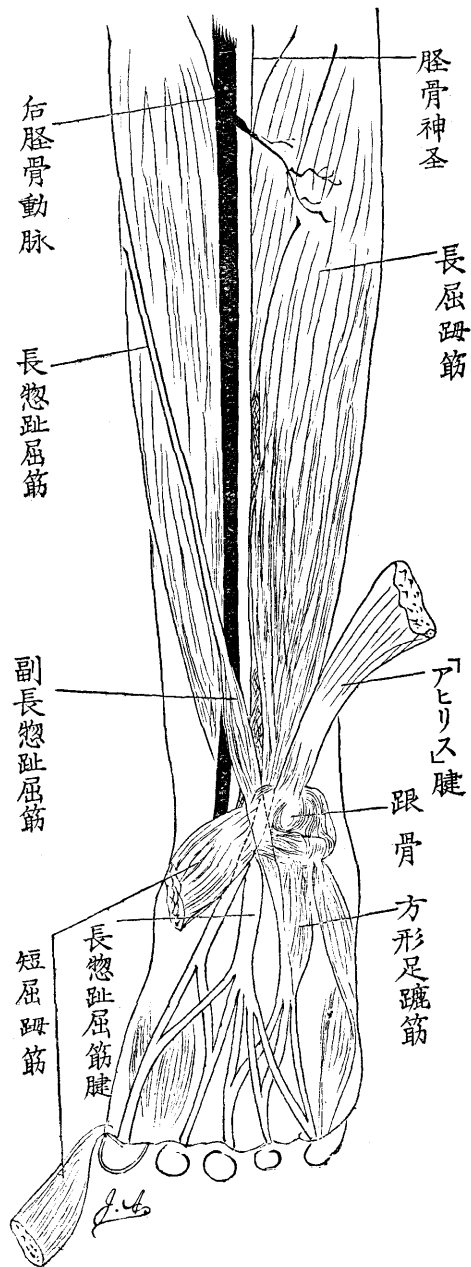
今茲ニ記載セント欲スル副長惣趾屈筋ハ生等カ本年三月解剖實習ノ際偶然相遇セルモノニシテ恩師金子教授ノ示導ノ下ニ親シク之レテ研究スルヲ得タリ依テ不文ヲ省ミス本誌ノ餘白ヲ汚サント欲スル所次ナリ諸君諒焉

抑々副長惣趾屈筋トハ下腿後側深層ニ存在スル一異常筋ニシテ稍々稀有ニ屬スルモノナリ今生等ノ實驗ヲ報スルニ先ヲチ之レカ參考ニ供センカ爲メ次ニ「ヘンレー」氏解剖書ニ記載スル要點ヲ抄出ス

下腿後側深層諸筋中通例ハ腓骨側ニ時トシテハ脛骨側ニ存在スル一異常筋アリ其ノ作用タルヤ
 方形足蹠筋ヲ補助スルモノナリ之レヲ副長惣趾屈筋 *Musculus flexor accessorius longus digitorum
 pedis (Hallst)* ト稱ス若シ該筋存在スル場合ニハ方形足蹠筋ハ欲損スルカ或ハ幽微ナリ而シテ一
 百二度ノ實驗中五度之レニ相遇セリ

生等カ實習セル屍体ハ筋肉ノ發育非常ニ良好ナル六十二歳ノ男子ニシテ副長惣趾屈筋ハ右側ノミ
 ニ存在シ比目魚筋ノ下層ニテ脛骨後面ノ内側方膝筋停止部ノ下部(即チ膝膈線ノ下部)ヨリ起首蹠
 ヲ以テ發シ斜ノニ長惣趾屈筋ノ上ヲ内踝ニ向ツテ下行シツ、紡錘狀ノ筋腹ヲ形成シ「アヒリス」蹠
 ト内踝トノ間ニ達シ長惣趾屈筋及ヒ長屈蹠筋ノ後側ニテ内輪狀靱帶ノ下ヲ通りテ足蹠ニ表ハレ細
 長ナル終蹠トナリ長惣趾屈筋蹠ノ外深層ヲ走り方形足蹠筋ヲ停止セシメ後チ三條ニ分レテ第三乃
 至第五趾ニ達スル長惣趾屈筋ノ蹠ニ合シ其ノ三分セル終蹠ノ外側方ヨリ第二乃至第四ノ蟲様筋ノ
 起首セルヲ見ル又方形足蹠筋ハ副長惣趾屈筋ヲ存在セシニモ係ラス其ノ發育頗ル良好ナリキ
 次ニ該筋ト動脈並ニ神經ノ關係ヲ見ルニ始メハ相關スル所ナキモ後脛骨動脈及ヒ脛骨神經ハ内踝
 ノ後上方數仙迷ノ間ハ副長惣趾屈筋ノ直下ヲ走り動脈ハ神經ノ内側ニアリ即チ長屈蹠筋ト長惣趾
 屈筋トノ間ニハ動脈及ヒ神經ノ外カニ副長惣趾屈筋ノ存在スルヲ認メタリ

以上ハ副長惣趾屈筋ニ付テ實驗セル大畧ナリ生等業ヲ受クル日尙ホ淺ク固ヨリ該筋カ臨床上果シ
 テ何等ノ興味アルモノタルカハ偏ニ先輩諸君ノ考慮ニ任セサルヲ得サルハ遺憾トスル所トス然レ
 凡右ノ如キ筋アル場合ニハ後脛骨動脈ヲ下腿下部ニテ結紮セント欲スル際ニ或ハ注意スヘキモノ



ニ非サルカ聊カ記シテ示教ヲ乞フ爾

抄 録

◎常度下體溫

常度下體溫 Subnormale Koerpertemperatur は左の場合に於て之を見る

- (一) 熱性病の經過中及經過後
- (二) 神経系の或疾病
- (三) 身体に急劇の作用(創傷、腹膜炎)を受けたる時
- (四) 無熱性悪液病